

養育里親

～もうひとつの家族～

2

坂口 伊都

はじめに

今回は、養育里親登録を開始するまでの家族に焦点を当てて、書いていきたいと思います。私以外の家族が、何を思っているのか今も把握しているわけではありません。内心、迷惑だと感じているかもしれません。それでも、新しい家族を迎え入れるための気持ちの準備をし、待っていてくれます。

里親をするには、家族の理解がなければできませんし、その中でも子どもの気持ちや意見と丁寧に向き合っていく必要を感じて、対話をするように心がけているつもりです。まだまだ、その行動が足りないかもしれませんが、家族あつての養育里親登録につながったのは確かです。

児童相談所

養育里親を目指すためには、まず自分が住んでいる地域管轄の児童相談所に電話をすることで始まりです。私は仕事で、幾つかの児童相談所に出入りしていましたが、自分自身が利用者として児童相談所に連絡をする経験は初めてでした。また、居住地管轄の児童相談所に面識はなく、電話をかけるまでに勇気がいりました。

児童相談所に電話をすれば、事態が動き出す覚悟を決めなければならないし、利用者として電話をかけるという行為は、想像以上にためらいがありましたが、思いきって電話をすると、まずは児童相談所に来ていただいてお話を聞か

せてくださいと言われました。

行ったことがない児童相談所に利用者として出向く前は、どんな人がどんな対応をするのだろうと考え、何となく気が重い感じがしていました。

児童相談所に着くと、相談内容を記す用紙が渡されました。養育里親になりたいので、相談に来ましたぐらいしか思いつかず、書きにくい用紙だなあが、利用者としての感想。ここで、敷居が一段高くなったような気がして、余計に落ち着かない気分になりました。

現れたのは、地域担当ワーカーと里親担当ワーカーの方でした。養育里親になりたいという趣旨と苦手な理由を告げると、養子縁組を希望しているわけではないのですねと聞かれました。

児童相談所に里親になりたいと相談に来る人の多くが、子どもに恵まれず、いろいろと悩んだ上、たとえ血のつながりがなくても家族として迎え入れたいという養子縁組を希望する里親だそうです。確かに、里親研修でお会いした方は、養子縁組を希望する里親のご夫婦 2 組でした。養育里親をしたいですと名乗りをあげる夫婦は稀であることを再確認しました。ただ、里親委託率がとても低い地域だからという部分もあるのだと思います。

児童相談所のワーカーは、現実の里親の姿を伝えようと必死になっていると感じました。預かる子どもの難しさや子どもが委託されるまでに時間がかかること等の説明を受けました。

「あなたも里親になりませんか？」という里親委託を推進するポスターを見かける時代になっていますが、児童相談所は、「よく来てくださいました。是非、里親を考えてください」ではなく、「里親はそんな簡単なものではありません。それでもやりますか」と問われるので、この初回で止めようとする人も出てくるだろうと想像できます。

ワーカーの方とこれまでの経緯や私の想いに

ついて話をしていく内に、里親委託される子どもの背景についても理解しているということになり、専門里親を考えてみる気はないかという展開になりました。中高校生で、できれば里親宅に行ければと感じる子どもは多く、ニーズはあるが行き先がないと語られました。専門里親は、中高生専門の里親ではありませんが、

- ① 児童虐待等の行為により心身に有害な影響を受けた児童
- ② 非行等の問題を有する児童
- ③ 身体障害、知的障害又は精神障害がある児童という枠組みがあり、より専門的なケアを提供する里親になります。

まずは、児童相談所で聞いた話を家族に伝え、里親登録を希望するかどうかが決まったら、改めて児童相談所に行き、申請書類をもらう段取りを言われました。なかなか、手間暇がかかる作業だなあが率直な感想でした。

家族会議

夫とその当時中 1 の息子、小 5 の娘に児童相談所で言われた事を話しました。専門里親になったら、あなた達よりも大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんが来て、時には怒鳴ったり、暴れたりすることも出てくるかもしれないと話した時、重い空気が漂いました。3 人とも無言です。そして、「ママ、取られちゃうの？」と娘が涙を流しました。「ママは、何が起ころうとあなたのママだよ」と答え、「あのさあ、こうやって話をすると、すごく怖くなっちゃうよね。でもね、化けものが来るんじゃないって、来るのは人間だからね」と言うと、息子も娘もクスッと笑い、表情が明るくなりました。

息子は、専門里親でもいいと言います。不思議なことに息子は、里親をすることに対してぶれないのです。もともと多くを語る子ではない

ので、真意はわかりませんが、「いいよ」という言葉に力強さがあります。それは、今でも変わりません。息子は、どのように理解して、感じているのだろうと心配に思うところはありますが、覚悟を決めているのかもしれない。

我が家が、里親としてやっていくために子ども達に意見を出してもらい、条件を出してあげれば良いと伝えました。あなた達が、里親をするのが嫌だと言え、無理をしてまでもしようとはしないし、いつでも嫌だという権利がある。家に来る子とは、必ず事前に家族全員が会って交流をし、息子、娘、その子の3人共と一緒に暮らしてもいいと言ってくれたら、里親としての生活が始まる。里親としての生活が始まったら、こちらの都合で預かれませんかとは言えないと伝えました。そして、「ママはね、あなた達が家族でいてくれるから里親ができそうな気がしたの。自分達だけが幸せだったらそれでいいとは、どうしても思えなくてね。だから、里親をしたいと思ったの」と言い、少し時間をかけて考えてもらう事にしました。

私の父と母には、婚姻関係がありません。物心ついた時から、私は母との二人生活で、母親から「あなたには家族がないから、自分の家族を作りなさい」と言われて育ちました。母が言う家族とは、世の中の理想的な家族像なのでしょう。私は、自分を普通ではない子どもと認識していました。そんな私が結婚をし、子どもを産み育て、母親になるイメージを持つていませんでした。不幸を支えに生きてると、人並みの幸せというものが眩しすぎて、尻込みしてしまいます。誰よりも幸せに憧れているのに、自分は幸せになってはいけない部類の人間だと目を伏せようとする。妊娠した時も、いつかは子どもに恨まれることを母になる私は、覚悟しなければいけないなど感じていました。わざわざ疲れるように生きていた頃の思考です。

子どもを産んでからも、上手く回らない感じ

が続きました。私の母は、何事も一所懸命取り組む人間なのですが、時としてピントがずれることがあります。出産前後は、母が私に付き添い、心配そうに手伝ってくれていました。ただ、子どもが泣くと「ああ、可愛そうに。こんなに泣かせて」と子どもを抱き、静かな場所に連れて行き、「ほら、私(母)が抱くと子どもは泣き止むでしょう」と言いながら戻ってくるのです。そのやり方では、新米ママの私が子どもを泣き止ませる術を学べません。

育児に心身ともに疲れきった時、私たち夫婦は、夫の実家に助けを求めました。その時、姑さんは「子どもは、泣くのが仕事。子どもにリズムを合わせてトントンすれば泣きやむよ。やっpegらん」と教えてくれました。こうして、不器用ながら、母としての生活が前に進み始めました。子どもを育てることは大変です。数多くの失敗も重ねてきました。私は、母としてやっpegけるのだろうかと思落した事もあり、その当時の私なら、自分の子一人を育てるのもしんどいのに、里親なんて絶対に無理と言うでしょう。

子どもとしても、妻としても、母としても躓いてきました。今は、できの悪い私を夫と子どもが支えてくれ、ここまで一緒に成長させてもらったと感じています。だから、この家族がついていてくれるなら里親ができるかもしれないと感じられたのです。さあ、家族からどんな返事がもらえるのでしょうか。

再び、家族会議で集結。夫は、子ども達を護ってけるのなら里親をしてもいいと言います。とにかく、子ども第一。息子は、相変わらず落ち着いた様子で、不愛想にいいよと言います。でも、年上は嫌だと言いました。娘は、モジモジしています。それは、いいよと言いたいけど、言いたくない、そんな複雑な気持ちなのでしょう。

そこで、「とりあえず里親の登録をしてから考

えよう」となりました。登録しなければ、新しい家族は来ないので、登録できてから、また話し合おうと決めました。この決定は、私の気持ちも軽くしました。新しい家族を迎え入れてと考えると、言いようのない不安に襲われますが、とりあえず登録からと考えると、やれそうな気がしてきます。

その後、児童相談所に出向き、家族の意向を伝えました。子ども達は、自分たちよりも年下の子を希望している事もあり、まずは養育里親からのスタートに落ち着きました。

家族のその後

この時から、徐々に養育里親という事を家族が意識するようになりました。娘は、「来る子は男の子？女の子？女の子がいいな。小学校1年生がいいかな、保育園の子がいいかな」と具体的なイメージを膨らませ、要求してきます。そして、「本当に来るの？やさしくできるかなあ。やっぱりやめる？」とも言います。娘は、登録を進めている間、ずっと揺れていました。この話を始めてから1年ぐらい経った頃、急に「決めた。覚悟できた。いいよ、来ていいよ。児童相談所に電話して」と言い出しました。その宣言後は、やめようと言わなくなりました。娘の中にどのような葛藤があったのでしょうか。何回もお風呂の中で話をしてきました。家にやって来る子は、親がいるという説明もしていますが、難しくてわからないそうです。

息子は、今でも落ち着いて、別にいいよと言います。何で、そんなに余裕なの？と聞くと、「俺は、部活の卓球に行ければそれでいい」と返ってきます。やはり、息子の真意はよくわかりません。

一番負担が多いのは、夫でしょう。これから一緒に里親研修と実習を受けなければならない

ですし、子どもが来たら、夫の役割は大きくなります。それでも渋らずにいる理由も、私にはよくわかりません。どこか楽天的な性格の夫は、何とかなるさと思っているのかもしれませんが。夫と一緒に養育里親登録を目指していて、気づくことができました。夫は子ども達の話の聞くことと高齢者に置き換えて理解をしようとするのです。高齢者福祉施設の職員だけあって、ああこういう利用者さんいるなあ、うんあるある了解という感じです。自分の経験に引き寄せて、理解しているようです。

この家族達の行動は、養育里親に向けて準備体操をしているように見えます。一人ひとり違う準備体操ですが、必要な期間なのだと感じています。里親家族としての準備は、子どもが、知らない家族の元にやってくる事を考え、いかに我が家に来てくれてありがとうと迎えられるかではないかと思います。その子（里子）の居場所を作っていこうという感覚を里親家族に育てることが、その子の安心につながると考えています。